輝いてます

第二中学校出身漫才コンビ「マウンテンず」

ひと

阿部 弾（あべ だん）さん
中野 陽斗（なかの はると）さん

機まつりで初MCに挑戦

ツッコミの中野さん（左）とボケの阿部さん（右）

夏の蕨の風物詩「機まつり」。今年、駅前ステージでMCを務めるのは、第二中学校出身の漫才コンビ「マウンテンず」の阿部弾さん（18歳・中央4丁目）と中野陽斗さん（18歳・錦町1丁目）です。SNSなどを使い、学生ながらプロのお笑い芸人を目指して活動しています。

幼い頃から周りを笑わせることが好きだったという二人は、中学1年生のとき、学校行事で初めて漫才を披露。先生たちの特徴を捉えたネタは想像以上の大爆笑で、このときの感動が忘れられず、芸人を目指すようになりました。

人見知りというボケの阿部さんは、繊細な性格ゆえの観察力を生かしたリアルな演技が持ち味。ツッコミの中野さんは生徒会長を務めるなど人望が厚く、周囲を巻き込む明るさで場を盛り上げます。

帝京高校に進んだ二人は、昨年、高校生の漫才日本一を決める「ハイスクールマンザイ」に出場。過去最多の796組が参加する中、動画審査に22本ものネタを送り、77組に絞られた準決勝へ進出。そこで敗退したものの「人を笑わせるのって楽しい。これからも笑顔を届けたい」と、お笑いの道へ進む決心を固めます。

現在は、腕を磨くため月3回ライブに出演。ネタの練習は毎日欠かさず、顔を覚えてもらおうと、YouTubeへの動画投稿や駅前での宣伝、市内イベントでゲリラライブを行うなど、地道な努力を重ねています。そんな二人の姿と、世代を問わず楽しめる芸風が、機まつり実行委員の目に留まり、駅前ステージのMC抜擢につながりました。

「全力で盛り上げます」と意気込む二人の夢は、高校の先輩「とんねるず」を超えること。「マウンテンず」が織りなす若さあふれる初MCのステージを、ぜひ見に来てください。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蕨にあり

—No.99—

本図は暁斎数え56歳の年、当時絵師・漆芸家として高名だった柴田是真、79歳との合筆作品です。中央の鯉を暁斎が描き、周囲の滝を是真が描いています。

中国・崑崙山脈を水源とする川の最終地、「龍門」という急流を登りきった鯉は龍になって天に登るという伝説は、狭き門を突破することを意味することわざ「登龍門」の語源にもなりました。本図はその「龍門鯉」を描いたもので、清冽な水の流れの中を迷いなくさかのぼる鯉の姿が涼を誘う逸品です。

本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

暁斎、柴田是真合筆
「鯉の滝登り」
明治19年（1886）頃
紙本墨画　軸装

河鍋暁斎記念美術館　開催中（25日まで）

企画展「暁斎・暁翠　いきもの美術館」展
同時開催　特別展「第38回かえる展」

開　館＝午前10時～午後4時
休　館＝火・木曜日、26日～末日
ところ＝南町4-36-4
入館料＝一般600円　高校生・大学生500円
　　小・中学生300円　65歳以上500円
　　※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください
詳　細＝同館（☎441・9780）

最新の情報は美術館のホームページをご参照ください

yosai Kawanabe

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勧業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。

河鍋 暁斎（かわなべ きょうさい）
天保2年（1831）
～明治22年（1889）

広報紙に載っている写真を希望者に差し上げます（一部を除く）　秘書広報課広報広聴係までご連絡ください